

# 農地を守り、水稻規模拡大、自社ブランド米確立プラン



ふぁーむふくた 福田 明

## 1 はじめに

私は平成 25 年に、父親の病気を機に、就農いたしました。水稻を中心に経営を行っており、令和元年に認定農業者となりました。

近年、担い手の高齢化や農家の離農が著しく、平成 28 年度時点では 11ha だった作付面積が現在、23.88ha まで急激に拡大しました。

平成 30 年には正社員として 1 人雇用をしており、本年も 1 人採用いたしました。作業をより計画的に行えるようになったことから、今後積極的に面積拡大をしていきたいです。

作業量が更に増えていく中で、現状の設備では稲刈りと乾燥調製の作業効率が悪くなっており、今後増えていく面積をこなしていくには高能率の機械を導入し、作業の効率化を図っていくことが重要です。

経営の現状として水稻種子栽培 ひとめぼれ コシヒカリ 星空舞 きぬむすめ ハクトモチを栽培しております。米の直接販売も行っており、消費者への直販と飲食店への卸をして収益性の向上を図ってきました。

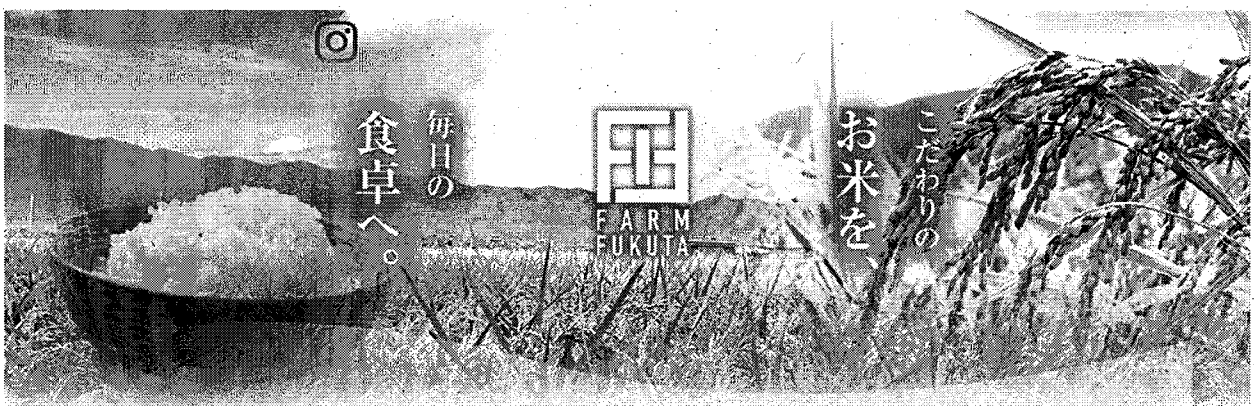
今後安定した経営をしていくために販売価格の高い直販を増やしていく必要があります。

オリジナルのパッケージを作り自社ブランド米の確立を図り、HP の開設・ネットショッピング・直売所での販売・SNS による発信等も積極的に活用し、販売先の拡大をしていきたいです。

今後も私の地域周辺では高齢化による離農が進んでいきます。そんな地域の受け皿となり頑張っていきたいです。

## 2 経営理念

- ・地域の担い手として模範となる稲作経営
- ・食味を重視した水稻栽培



### 3 経営の現状と計画

#### (1) 経営規模の現状と計画

(単位：a)

項目	R 3 (現状)	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標)
経営耕地 (計)	2,388	2,500	2,600	2,700	2,800
うち所有地	87.8	87.8	87.8	87.8	87.8
うち借地	2,300.2	2,412.2	2,512.2	2,612.2	2,712.2
品目別栽培面積					
水稻 (計)	2,375.1	2,500	2,600	2,700	2,800
ひとめぼれ	204.9	275	300	325	350
コシヒカリ	480.2	480	500	530	550
星空舞	650.1	650	675	700	700
きぬむすめ	213.7	250	280	300	355
ハクトモチ	24.9	25	25	25	25
きぬむすめ(種子)	489.6	500	500	500	500
ハクトモチ(種子)	311.7	320	320	320	320
作業受託(計)					
耕作	98	98	98	98	98
代掻き	140	140	140	140	140
田植	180	180	180	180	180
稲刈り	300	300	350	400	450
乾燥・籾摺り	350	350	400	450	500

#### (2) 農業労働力 (現状と計画)

農業従事者	年間農業従事日数 (日)		備考	年齢 (R3年10月現在)
	現況 (R3)	計画 (R7)		
福田 明	250	250	代表	■
■	150	150	オペレーター 作業・軽作業	■
■	250	200	栽培管理	■
■	0	250	営業・事務・ 栽培管理	■
■	250	250	栽培管理全般	■
■	250	250	栽培管理全般	■

(3) 農業機械施設の整備状況（R3年10月時点）

別紙（1）を参照

4 プラン目標及び目標達成のための課題と改善内容、その効果

目標

- 1 水稻面積規模拡大 ～乾燥棟の建て替えにより乾燥機の増設・コンバイン導入による作業の効率向上～（経営面積 R3：2,388a → R7：2,800a）
- 2 フレコン計量機、色彩選別機導入による品質向上及び作業負担の低減化（フレコン袋数 R3：0袋 → R7：52袋）
- 3 自社ブランド米の確立による収益率向上・直販・飲食店卸の拡大（直販、飲食店売上 R3：100（指数）（見込） → R7：145（指数））

1 水稻面積規模拡大

1) 目標達成のための課題

ア 現在乾燥は4台（25石1台・30石3台）で乾燥調製を行っている。乾燥棟にこれ以上の増枠や乾燥機の増設を行えるスペース・高さが無いため1日に1.1haしか乾燥を行えない。また、近年気象状況が厳しく、雨で刈り取り出来ない日が多くなってきており、刈り取り期間の長期化につながっている。そのため繁忙期には乾燥の受託作業を何件か断っている。

また、食味重視の米を直販しているので時間をかけた乾燥、圃場別に乾燥機を分けて乾燥をおこなっているため乾燥調製に時間がかかっている。既存の建物を改築して高さを出そうにも建物が古い為、建物が耐えられなくなるので改築は現状では不可能となっている。

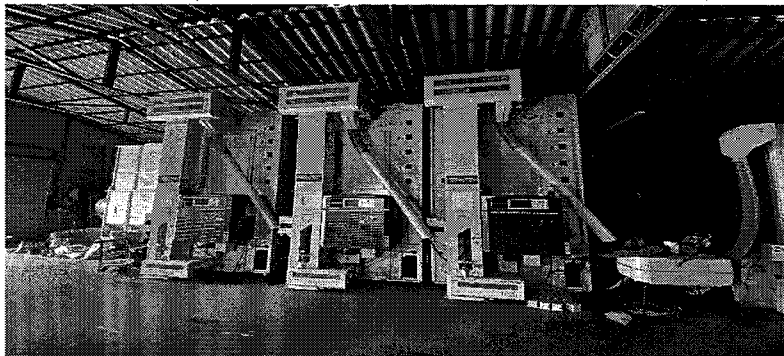


写真1：既存乾燥機の様子

イ 現在、5条コンバイン(101ps)と4条コンバイン(40ps)の2台で作業を行っている。採種圃場の刈り取りの際には5条コンバインが専用車になるために、一般米や受託作業に4条コンバインを使用しているが、4条コンバインは購入から20年経っており性能が古く作業効率が悪く刈り取りに時間がかかっている為に、刈り取り期間が長期化している。

## 2) 改善内容及び期待される効果

ア 乾燥棟の建て替えにより、建物の高さが3m80cmから6mに上がり、現在所有の30石乾燥機が55石へ増枠が出来る。新規に30石乾燥機を導入し、5台になることにより一日に2ha乾燥できるようになるため、今後規模拡大を行っても刈り取りの長期化を防げる。

台数を増やすことで細かな受託乾燥の対応ができるようになり、受託乾燥の拡大を図ることができる。

また、良食味米の為に圃場別の乾燥と時間をかけた乾燥が、台数が増えることで継続できる。

イ 4条(71PS)コンバイン導入により1日の刈り取り作業が2haできるようになり効率的な作業ができる。刈り取り作業の日数が短縮でき、今後の面積拡大にも対応できるようになる。刈遅れによる品質の低下を防ぐことができ、稲刈りを効率的に計画通りに行うことで、秋の耕運作業にも早くかけられるようになる。

### ○コンバイン稼働率

品種	刈り取り面積(R2実績)			稼働率	刈り取り面積(R7目標)			稼働率
	4条	5条	合計		4条	5条	合計	
ひとめぼれ	4条	0a	0a	0.00%	4条	125a	350a	35.70%
	5条	0a		0.00%	5条	225a		64.30%
コシヒカリ	4条	108a	458.8a	23.60%	4条	200a	550a	36.40%
	5条	350.8a		76.40%	5条	350a		63.60%
星空舞 一般	4条	120a	546.8a	22.00%	4条	250a	700a	35.70%
	5条	426.8a		78.00%	5条	450a		64.30%
星空舞 種子	4条	0a	100.6a	0%	4条	0a	0a	0%
	5条	100.6a		100%	5条	0a		0%
きぬむすめ 一般	4条	115a	341.9a	34%	4条	250a	355a	70%
	5条	226.9a		66%	5条	155a		30%
きぬむすめ 種子	4条	0a	395.3a	0%	4条	0a	500a	0%
	5条	395.3a		100%	5条	500a		100%
ハクトモチ 一般	4条	0a	36.5a	0%	4条	0a	25a	0%
	5条	36.5a		100%	5条	25a		100%
ハクトモチ 種子	4条	0a	229.9a	0%	4条	0a	320a	0%
	5条	229.9a		320%	5条	320a		320%
受託	4条	100a	300a	33.30%	4条	200a	450a	44.40%
	5条	200a		66.70%	5条	250a		55.60%
合計	4条	443a	2409.2a	18.40%	4条	1025a	3250a	31.50%
	5条	1966.2a		81.60%	5条	2225a		68.50%

○刈り取り期間 乾燥・籾摺り 色選作業 (上段:現状 下段:目標)

区分	収穫時期								
	9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ひとめぼれ	■								
コシヒカリ		■							
星空舞		■	■						
きぬむすめ一般				■					
きぬむすめ(種子)				■					
ハクトモチ一般					■				
ハクトモチ(種子)					■				
色選作業			■	■	■	■			

2 品質向上及び作業負担の低減化

1) 目標達成のための課題

ア 収穫時の1日の作業の流れとして、乾燥→籾摺り→稲刈り となっている。乾燥作業後に籾摺り作業をすませないと乾燥機が空かない為、稲刈り作業にかかれませんが、籾摺り作業を4人で行って、籾摺り機に1人、すくも取り1人、袋詰め(30kg)作業に2人とられている。籾摺り作業に人員が割かれている為、稲刈り作業にかかれる時間になっても籾摺り作業が終わらないと現状では稲刈り作業にかかれず、その為、刈り取り作業にかかる時間が遅くなり、作業の長期化につながっている。



写真2：籾摺り作業の様子

イ 現在、所有している色彩選別機の性能では粃摺りラインには対応しておらず、色選作業は粃摺り作業後に行っているため作業がたまってしまっている。

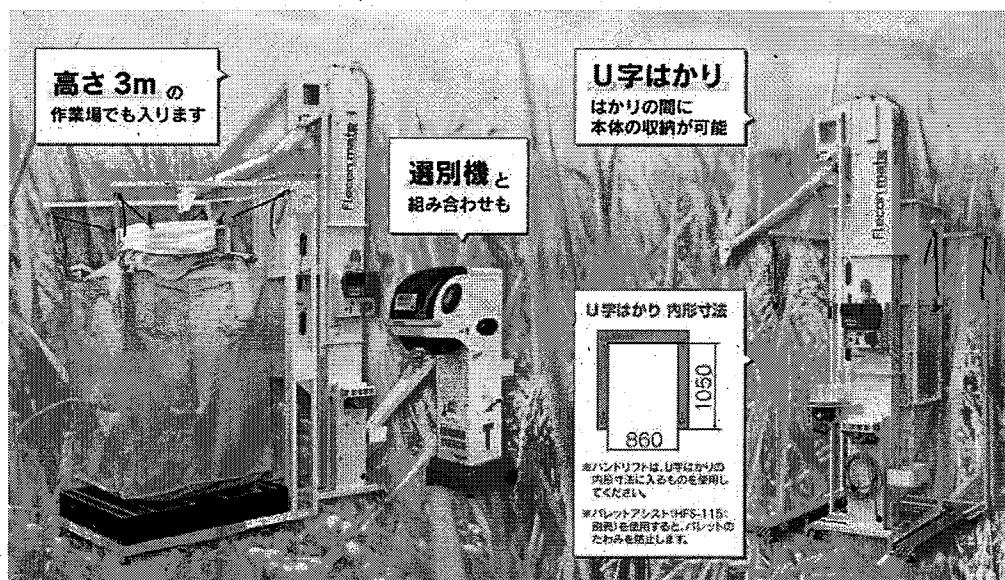
色彩選別機による異物混入の除去作業は、直販・JA等に出荷する際には必要不可欠な作業となっている為、色選作業が終わるまでは出荷・販売ができない。

## 2) 改善内容及び期待される効果

ア フレコン計量器を導入することにより、現状、4人で行っている粃摺り作業が3人で行えるようになる。また30kg袋で計量していた作業がフレコン袋(1,050kg)に代わることで作業負担の軽減と人員削減にもなる。(R7:30kgで320袋→フレコン袋9袋)

袋詰め作業に取られていた人員が減ることにより、粃摺り間も稲刈り作業ができるようになり、粃摺りの作業効率の向上・稲刈りへのかかりも早くなることにより刈り取りにかかる時間を早くでき、刈り取り期間の短縮にもつながる

写真3：フレコン計量器



1日の作業時間													R3見込	
時刻														
作業名(人)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19~6	
乾燥														
籾摺り(4人)														
稲刈り														

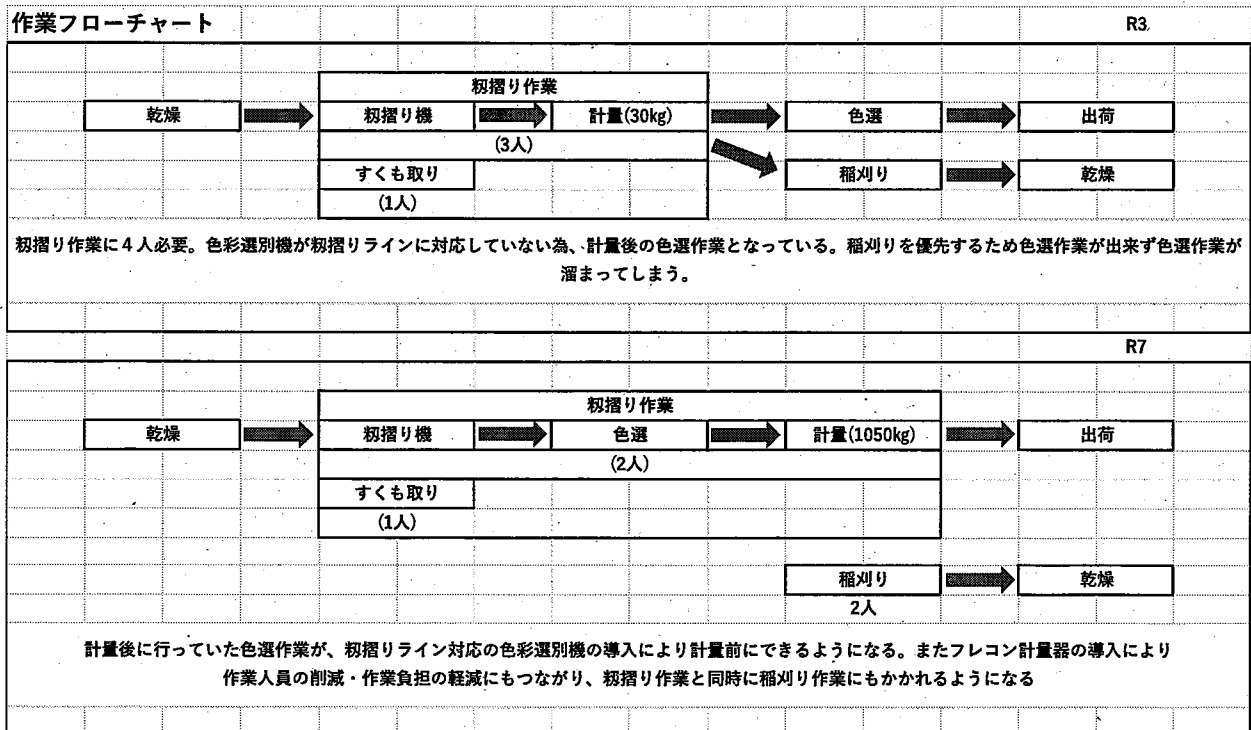
													R7目標	
時刻														
作業名(人)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19~6	
乾燥														
籾摺り(3人)														
稲刈り(2人)														

表では R3 より R7 の方が、籾摺り時間が長くなっているが、

R3 は 1 日に 1.1ha 刈り取り→籾摺り 176 袋(30 kg) 1a あたり(16 袋)

R7 は 1 日に 2ha 刈り取り→籾摺り 320 袋(30 kg)

と作業量が増えているためである。R3 では籾摺り後の稲刈り作業であったが、籾摺り作業の効率化により籾摺り作業と同時に稲刈り作業が可能となる。



イ 粳摺りライン対応の色彩選別機の導入により、フレコン出荷にそのまま対応できるようになる。販売用の米に対しても再度通す色選作業の際にもフレコン(1,050kg)からの作業になるため作業負担の低減化にもつながる。また COOP と JA はすべてフレコン出荷の予定としているので 30 kg 紙袋の資材費削減にもつながる。紙袋 2700 袋使用しているのがフレコン対応にすることにより 800 袋になり、1900 袋の紙袋の削減につながる。

30kg : 1,900 袋の袋出荷がフレコン出荷になることで 1,050kg : 52 袋となる

(目標) フレコン袋数 R3:0 袋 → R7:52 袋

### 3 直販・飲食店 販路拡大

#### 1) 目標達成のための課題

ア 現在、直販・飲食店向けのお米にはミネラルが豊富な海藻エキスを使い、化学肥料を減らした栽培をして食味重視の栽培を行っているが、特に販売するうえでは工夫しておらず、直売所等での販売もしていない。販売先の現状は既存のお客様や紹介等で成り立っているのが現状で、規模拡大を図る上で、販売単価の高い直販・飲食店の販売先を拡大していく事が必要となる。

イ 現在、玄米の保管は所有している保冷庫 4 台で保管している。合計で 364 袋しか保管できない為、直販・飲食店卸を拡大していくにはこれ以上保管できず難しくなっている

#### 2) 改善内容及び期待される効果

ア オリジナルのパッケージを R3 年の販売までに作成し、R4 年度には EC サイトでの販売・新たに直売所での販売をする。HP・SNS の活用し県内に留まらず県外の消費者にもアピールをして直販の販売を増やしていく。

飲食店への営業を積極的におこない、直卸を増やして販売益の向上を図り、売り上げの利益率をあげる。直販・飲食店への販売数(30 kg/袋)をそれぞれ 250 袋・300 袋 → 400 袋・400 袋に増やす。

イ 新たに玄米保管庫(288 袋)を導入し、652 袋を保冷庫に保管が可能となる。1 年中、品質を落とすことなく販売ができることにつながり、直販の販売を拡大することができる。

(目標)

直販・飲食店 売り上げ R3:100(指数) → R7:145(指数)



販売先の現状の出荷数と目標						袋(30kg)
	R2	R3	R4	R5	R6	R7
直販	200	250	300	300	350	400
飲食	250	300	350	350	350	400
COOP	729	750	800	900	950	1,000
JA	735	800	800	850	900	900
計	1,914	2,100	2,250	2,400	2,550	2,700

販売先別の売り上げと目標						円	販売単価 30kg
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
直販							
飲食							
COOP							
JA							
計							

## 5 具体的な取組と役割分担

具体的な取組項目	R4	R5	R6	R7	役割分担
水稻規模拡大	○	○	○	○	事業主体
ブランド米の確立	○	○	○	○	事業主体
販路拡大	○	○	○	○	事業主体
機械設備の充実					県、市、事業主体
・乾燥棟	◎				
・乾燥機		◎			
・乾燥機増枠		◎			
・フレコン計量機	◎				
・玄米保管庫		◎			
・色彩選別機		◎			
・4条コンバイン			◎		

## 6 支援事業の内容（年次計画）

（単位：千円、支援事業は税抜）

項目	台数	R4	R5	R6	負担区分
乾燥棟	1	9243			県 1/3 市 1/6 事業主体 1/2
乾燥機	1		2168		
乾燥機増枠	1		1431		
フレコン計量器	1		1000		
玄米保管庫	1		1500		
色彩選別機一式	1		3010		
4条コンバイン	1			9133	
合計		9243	9109	9133	

## 7 機械導入理由と規模決定根拠

別紙（2）を参照

### 【別添】

- 経営試算表
- ほ場位置図
- 導入機械等の見積書、カタログ 等